

## 「笹川杯日本を知る作文コンクール 2025」

## 参赛信息表：

姓名	郑轶文	性别	女	出生年月	2003.05
院校・公司	上海交通大学	专业・年级	影视传媒 研一		
通讯地址	上海市闵行区古美西路 899 弄 63 号 802				
电话	13310053058	微信	A1831811153		
邮箱	1831811153@qq.com				
指导教师		电话			
邮箱					

声明：此个人信息仅用于本赛事的活动通知使用。

作文附于线下

## 侘び寂びの先へ

谷崎潤一郎『陰翳礼讃』をひもとき、まず胸に迫りしは「暗さをこそ美とする眼差し」であった。われらが日常において、暗がりとは不安や孤独を連想させるものにすぎぬと思っていた。されど谷崎は、むしろその陰を以て光を映えさせ、深遠なる美を顕わす舞台とした。その逆説の感性に触れしとき、我が内なる眼は洗われ、未だ気づかざりし日本の美意識が呼び覚まされた思いがした。

障子を透かす淡き光、漆器の黒に沈む艶やかさ、仄暗き室内に浮かび上がる肌の白き輝き。これらは日々の暮らしの傍らに確かに在りながら、我らは多く見過ごしてきたものである。谷崎の筆により改めて示されたとき、それらはただの風景ではなく、悠久の文化に支えられた美の相であると

联络：孙研 电话：010-68315335 13681133056 (可微信)

地址：100037 北京市西城区百万庄大街24号 中国外文局亚太传播中心 人民中国杂志社

知り、我が暮らしの奥にも伝統の息づくことを悟った。かかる発見は、ひそかに誇らしく、また心を豊かにするものであった。

しかのみならず、谷崎は西洋の文化を排斥するにはあらず。白熱灯の明るさや銀器の光沢を対照に置きつつ、日本の美の特質をより鮮やかに浮かび上がらせた。これぞ「侘び寂びの先へ」とも言うべき姿勢であろう。伝統に固く閉じこもるのではなく、他文化を照らし鏡として己を省み、そこに独自の価値を見いだす。彼の随筆に通底するのは、まさにその柔らかなる包容の精神であった。

近年上演された映画『国宝』は、この理念を見事に映し出していた。伝統芸能を継ぐ者たちが、古の技を守りながらも新たなる表現を模索し、舞台に立つ姿は、保存と革新の狭間に生きる者の覚悟を示していた。古きを壊すことなく、新しきを迎え入れることで、伝統そのものが生き続ける。谷崎が語った「陰翳の美」もまた、この均衡のうちにこそ真の輝きを放つのであろう。

現代社会を顧みれば、あまりに光に満ちあふれている。都市の夜はネオンに覆われ、我らの掌には常にまばゆき画面が輝く。だがその一方で、ふと明かりを落とした室内にて過ごすひととき、あるいは夕暮れの影に身を沈める瞬間、心が静まり、安らぎを覚えるのもまた事実である。『陰翳礼讃』を読んで以来、我はその感覚を意識的に大切にせんと心に決めた。陰影に身を委ねるとき、人は己と向き合い、他者を思い、世界を感じるができるのだ。

結局のところ、『陰翳礼讃』は単なる美学論にあらず。日々の暮らしを省みる契機であり、伝統と未来を結ぶ道標でもあった。侘び寂びの美を継ぎながら、世界へ視線を差し、異なる文化を

受けとめつつ己が文化を磨き上げる。その姿勢こそが、これからの時代に求められる日本人の生き方にほかならぬ。

谷崎の随筆を通して、我は静かに悟った。伝統を守るとは、ただ保存することにあらず。それは他文化との対話を経て、より深き陰翳を帯びた新たな未来を創り出す営みなのである。光と影とが交わるところに真の美が宿る。『陰翳礼讃』の教えは、今を生きる我らにこそ響きわたり、道を照らすのである。

出自：谷崎潤一郎『陰翳礼讃』